

# A 概 要

## 1. 沿革

1950 (昭 25)

### 北海道立農業試験場が誕生した。(11月)

- ・全国農業試験研究機関の整備総合計画に基づき、北海道農業試験場を改組し、農水省北海道農業試験場と北海道立農業試験場が設置された。いずれも、北海道の開拓とともに進められてきた農業試験研究の歴史と成果を引き継ぐものである。
- ・道立農業試験場は、札幌市琴似町に「本場」をおき、渡島、上川、十勝、北見、根室、天北の6支場と原原種農場により構成された。

1952 (昭 27)

- ・宗谷支場、岩宇園芸試験地を設置した。また同年、岩見沢試験地(旧岩見沢水稲試験地)を設置し、1955年に空知支場と改称された。

1962 (昭 37)

- ・江部乙りんご試験圃場(旧空知果樹園芸試験地)が道立農業試験場に移管された。

1964 (昭 39)

### 中央農業試験場が発足した。(11月)

- ・北海道立農業試験場の拡充強化を図るため組織改正が行われた。
- ・「本場」は、中央農業試験場として9部構成に機構整備された。これにより空知支場は同稲作部となり、江部乙りんご試験地、岩宇園芸試験地を統合した。また、原原種農場は中央農業試験場に附置されることとなった。更に試験場の役割についても整理され、中央農業試験場には、道農政との有機的な連携の保持と農業技術開発の全道的な総括並びに各試験場間の連絡調整業務が盛り込まれた。
- ・同時に各支場は会計部局として独立し、本場・支場の関係が改正された。また、1962年新得・滝川両種畜場が両畜産試験場に改組され、この年主管課が農務部畜産課から同農業改良課に替ることにより、原原種農場も数えて道立農業試験場の10場体制が整った。
- ・一方、農水省北海道農業試験場との分担関係も整理され、それまで国立農業試験場長が道立農業試験場長を兼任していたのが解かれた。

1966 (昭 41)

### 中央農業試験場が長沼町に移転した。

- ・琴似町に所存する試験圃場周辺の都市化が進み、環境が試験研究に適さなくなった。そのため1964年7月移転先を現在地の長沼町東6線北15号に決定、翌1965年移転工事に着手した。1966年に移転業務が完了し、1967年10月移転整備完了祝賀会が催された。

1968 (昭 43)

### 技術連絡室を設置した。(4月)

- ・道立農業試験場における試験研究の企画及び連絡調整機能を強化するため、中央農業試験場総務部企画課を改組して技術連絡室を設置した。

1969 (昭 44)

### 専門技術員を試験場に配置した。(4月)

- ・普及事業と試験研究との連携強化のために、専門技術員が中央・上川・十勝・北見各農業試験場に配置された。以後、道南・根釧・天北農業試験場及び稲作部に逐次配置された。

1971 (昭 46)

### 岩宇園芸試験場が廃止された。

1975 (昭 50)

### 環境保全部を設置した。(5月)

- ・前年化学部に新設された環境保全部を改組し、環境保全第一科・同二科をもって環境保全部とした。

1986 (昭 61)

- ・江部乙りんご試験地が廃止された。(3月)

### 植物遺伝資源センターが設置された。(4月)

- ・原原種農場が植物遺伝資源センターに改組・改称され、従来の原原種生産事業とあわせて、植物遺伝資源に関する研究の中核機関として位置づけられた。
- ・土木研究室を設置した。(4月)

1987 (昭 62)

### 生物工学部を設置した。(4月)

- ・バイオテクノロジーの進歩により、その先端技術を積極的に取り入れるため、1984年技術連絡室に設置されたバイオテクノロジー研究チームを発展的に改組し、育種開発科、微生物開発科をもって生物工学部とした。
- ・同時にそれまでの化学部は農芸化学部に、環境保全部は環境資源部に、園芸部花きそ菜科を野菜花き第一、第二の2科とし、最近の新しい研究ニーズに応える体制にした。また、技術連絡室は企画情報室に改組し、従来の2係を企画課と情報課に再編した。

1991 (平 3)

**道立農業試験場基本計画が策定された。(2月)**

- ・この計画は、北海道新長期計画がめざす「国際化時代に生きる力強い農業」の中で示されている「地域農業ガイドポスト」を試験研究のサイドから支えるものとして策定された。
- ・北海道病害虫防除所の設置(中央農業試験場内)により、病虫部発生予察科の業務を移管した。

1992 (平 4)

**「基本計画」に基づいた組織改編が行われた。(4月)**

- ・当面急がれる園芸研究の強化やクリーン農業などを推進するため、組織改編をした。
- ・研究部門では、化学部門は環境化学部と農産化学部に編成替えを行い、園芸部は果樹科、野菜花き科をそれぞれ第一、二科の4科に、経営部は流通経済科を新設して2科に、また、病虫部は土壤微生物科を新たに加えた3科にいずれも拡充強化された。
- ・農業土木研究室は生産基盤科、農村環境科の2科に拡充し、農業土木部とした。
- ・企画情報室には調整課を新設し、試験研究の総合企画調整機能の強化が図られた。

**中央農業技術情報センターを新設した。(4月)**

- ・1986年以降5年間をかけて整備してきた北海道農業試験研究情報システム(通称HARIS)の本格的な稼働に伴い、各種情報システムの管理運営主体として設置された。この情報センターは、研究情報班(企画情報室情報課職員)及び普及情報班(情報担当専門技術員)からなる機能的組織として構成された。

1993 (平 5)

**仮称「花き・野菜技術センター」の基本設計が完成した。(11月)**

- ・花き・野菜に関する試験研究の中核的、先導的役割と成果の効果的な伝達並びに活用を目的に設置されることとなった。滝川畜産試験場の敷地内に建設され、その土地基盤及び施設関係の基本的設計が完成した。

1994 (平 6)

**畜産部が廃止された。(4月)**

- ・畜産部門の再編により、畜産部畜産科を新得畜産試験場に移管し、部長に代わって研究参事を設置した。

1996 (平 8)

**花・野菜技術センターが設置された。(4月)**

- ・花・野菜技術センターが設置されたことにより園芸部は果樹部となり、野菜花き第一・二科の廃止により2科体制となる。稲作部の専門技術員は、本場へ集中された。

1998 (平 10)

**道立農業試験場新研究基本計画が策定された。(3月)**

- ・この計画は、農業技術の開発と普及によって農業・農村の活性化に貢献することを基本理念とし、長期的展望に立った試験研究の基本方向を示し、もって21世紀における北海道農業の発展に資することを目的として策定された。

2000 (平 12)

**「新研究基本計画」に基づいた道立農業試験場機構改正が行われた。(4月)**

- ・多様化する研究ニーズに対応するため、研究部・科を再編統合した。
- ・研究10部を作物開発部、生産システム部、クリーン農業部、農業環境部、農産工学部の5部に再編した。
- ・研究部門と普及部門の連携強化を図り、地域課題への対応や新技術の普及定着を促進するため、技術普及部を設置した。
- ・企画調整や技術情報発信機能などの強化を図るため、企画情報室と技術普及部とで構成する企画情報技術センターを設置した。

2004 (平 16)

- ・「米政策改革大綱」を踏まえ、研究開発を一元的かつ総合的に進める体制を整備し、地域水田農業の発展を技術的に支援するため、水田農業科を設置した。
- ・病害虫防除業務の一元的な組織管理により、一層効率的な運営を図るため、病害虫防除所と中央農業試験場を統合した。
- ・試験研究の重点化や効率化の一層の推進を図るため、研究基本計画の見直しを専掌する研究参事が企画情報室に配置された。

2006 (平 18)

**「新研究基本計画」に基づいた道立農業試験場機構改正が行われた。(4月)**

- ・社会情勢の変化に対応するため、道立農試10場体制のうち、天北農試が上川農試天北支場に、植物遺伝資源センターが中央農試遺伝資源部となり、8場+1支場体制にした。
- ・研究部の一部を見直しするとともに、全道対応する環境保全部、基盤研究部、遺伝資源部、地域対応する作物研究部、生産研究部、生産環境部に再編した。

2010 (平 22)

**地方独立行政法人北海道立総合研究機構が創設された。(4月)**

- ・各分野の道立試が果たしてきた機能の維持及び向上を図り情勢変化に柔軟に対応できる組織へと改革していった

め、22の道立試が単一の地方独立行政法人化し北海道立総合研究機構が創設された。

・独法化に伴い、新たに農業研究本部が創設され、部においても8部1室制から7部制に再編され、科・係体制からグループ制へと移行した。

## 2. 位置

夕張郡長沼町東6線北15号  
北緯43°03′ 東経141°46′ 標高23～24m  
長沼町市街より北方約8.5km、JR室蘭本線栗山駅  
西南約3km 札幌市より約40km

(遺伝資源部)

滝川市南滝の川363番地  
北緯43°34′ 東経141°56′ 標高53～54m  
JR函館本線滝川駅北東5.5km

(生産研究部水田農業グループ)

岩見沢市上幌向町217番地  
北緯43°10′ 東経141°42′ 標高12m  
JR函館本線上幌向駅南方300m

## 3. 土壌

本場は、夕張川流域に分布する平坦な沖積土と馬追山麓端の暖傾斜を呈する洪積土及び扇状土からなっている。台地は樽前山系火山灰が推積している。平坦部の沖積土の表層は腐植の含量が少なく、粘土の強い埴土及び植壤土、一部には砂壤土ないし砂土となる場所も存在する。

遺伝資源部は、第4記層に属する洪積土、表土は埴壤土で粘性に富み、酸性が強い。下層土は重粘土で緻密な構造を有し、酸性が強く、未風化で、気水の透通性は極めて不良である。

生産研究部水田農業グループは、幾春別川に由来する沖積の埴土と低位泥炭土からなり、いずれも強グライを呈する土壌で、潜在地力は極めて高い。

## 4. 面積及び利用区分

(単位:m<sup>2</sup>)

区分	総面積	法人有地	水田	畑	果樹園
本場	637,477	636,526	0	390,257	123,942
遺伝資源部	245,764	245,764	21,700	130,592	0
岩見沢試験地	214,044	214,044	176,657	0	0
合計	1,097,285	1,096,334	194,984	524,222	123,942

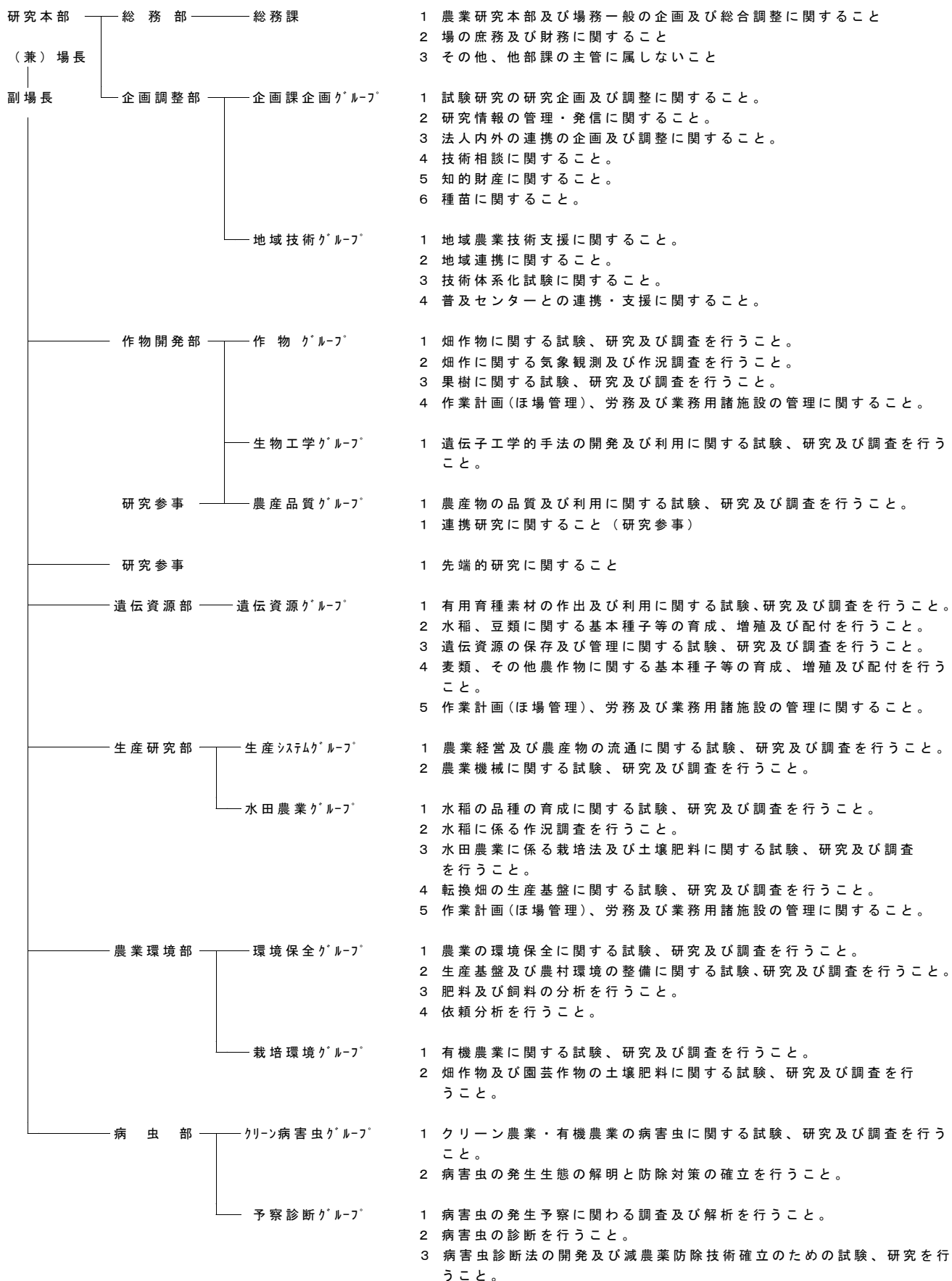
区分	雑種地	原野	建物敷地	防風林	借地
本場	4,865	20,130	97,199	133	951
遺伝資源部	24,040	34,123	35,309	0	0
岩見沢試験地	0	0	37,387	0	0
合計	28,905	54,253	169,895	133	951

## 5. 職員の配置

平成23年3月31日

区分	研究職	主任・農技	道派遣	計
	86	14	19	119
うち再雇用者	4	7	0	11

## 6. 機構



## 7. 現在員

### 1) 現在員(平成23年3月31日)

職名	氏名		職名	氏名
本部長兼場長	竹田芳彦		研究主任	大西志全
副場長	八巻裕逸		研究職員	西村努
総務部長	小林正廣		主査(果樹)	村松裕司
総務課長	日蔭敏美		研究主任	井上哲也
主幹(遺伝資源部)	和島敏行		研究職員	池永充伸
副主幹兼主査	佐藤信博		研究職員(再雇用)	松井文雄
主査(総務)	森山桂一		指導主任	谷藤二三雄
指導主任	八畝博		指導主任	森佐太郎
主任	本間佳名子		"	山保政貴
"	瀬川琴美		農業技能員(再雇用)	柴田良昭
"	三木麻里子		研究主幹	入谷正樹
"	熊谷美希		主査(生物工学)	富田謙一
主任(再雇用)	桂木繁		研究主査	木口忠彦
主任(再雇用)	上坂晶司		研究主任	鈴木孝子
主査(研究調整)	根本和宜		研究主任	小倉玲奈
主査(整備)	太田玲子		研究職員	山下陽子
主事	安部優		研究参事兼研究主幹	加藤淳
主査(管財)	按田宏之		主査(農産品質)	小宮山誠一
指導主任	加可谷知夫		研究主任	阿部珠代
"	土井正博		研究主任	小谷野茂和
企画調整部長	田中英彦		研究職員	藤井はるか
企画課長	白井滋久		研究職員	齋藤優介
主査(研究企画)	大坂郁夫		研究参事	目黒孝司
主査(研究評価)	平井剛		遺伝資源部長	相川宗嚴
主査(研究情報)	宗形信也		研究主幹	玉掛秀人
主査(研究調整)	齊藤吉明		主査(資源管理)	浅山聡
主査(研究企画)	滝野元信		研究主査	平井泰均
研究主査	田中一生		研究主任	木内均
研究主幹	中住晴彦		研究主任	梶田路津子
主査(地域支援)	稲川裕志		研究職員(再雇用)	峰崎康裕
主査(地域支援)	渡邊祐志		主査(資源利用)	鈴木和織
主査(地域支援)	後藤英次		主任	北和宏
主査(地域連携)	堀田治邦		"	六田靖男
作物開発部長	柳沢朗		農業技能員(再雇用)	佐藤正春
研究主幹	前野眞司		"	氏家省治
主査(畑作)	藤田正平		生産研究部長	竹中秀行
研究主任	鴻坂扶美子		研究主幹	西村直樹
研究主任	相馬ちひろ		主査(経営)	平石学

研究職員	日向貴久	主査(土壤生態)	中辻敏郎
〃	濱村寿史	研究主任	櫻井道彦
主査(機械)	木村義彰	研究職員	杉川陽一
研究主査	稲野一郎	病虫部長	田中文夫
研究主任	石井耕太	研究主幹	橋本庸三
研究主幹	丹野久	主査(クリーン農業)	岩崎暁生
主査(水稻育種)	平山裕治	研究主任	青木元彦
研究主査	木下雅文	研究職員	栢森美如
研究職員	其田達也	主査(病害虫管理)	相馬潤
主査(水田環境)	中村隆一	研究主任	新村昭憲
研究主任	塚本康貴	研究主任	藤根統
研究主任	佐々木亮	研究主幹	清水基滋
研究職員	長田亨	主査(予察)	美濃健一
指導主任	梶山靖二	研究主任	佐々木純
主任	石井伸也	研究主任	小野寺鶴将
農業技能員(再雇用)	高橋光男	研究主任	武澤友二
〃	上田通広	主査(予察)兼務	堀田治邦
農業環境部長	志賀弘行		
研究主幹	中津智史		
主査(環境保全)	中本洋		
研究主任	上野達		
研究職員	濱村美由紀		
研究職員(再雇用)	山上良明		
〃	橋本均		
研究主幹	日笠裕治		
主査(栽培環境)	古館明洋		
研究主任	須田達也		

## 2) 転入者及び採用者

職 名	氏 名	発令年月日	備 考
総務部長	小林正廣	H22. 4. 1	農政部農業支援課
総務課長	日蔭敏美	〃	農政部技術普及課
総務部主幹(遺伝資源部)	和島敏行	〃	農政部農業支援課
総務課主査	根本和宜	〃	農政部農政課
〃	太田玲子	〃	農政部農産振興課
企画調整部主査	滝野元信	〃	農政部農産振興課
総務課主任	瀬川琴美	〃	空知支庁産業振興部農務課
総務課技師	熊谷美希	〃	道南農業試験場
総務課主事	安部優	〃	網走支庁産業振興部農務課
遺伝資源部主査	鈴木和織	〃	上川農業試験場
作物開発部研究参事兼 研究主幹	加藤淳	〃	総務部試験研究機関改革推進室
作物開発部研究主任	小倉玲奈	〃	上川農業試験場
生産研究部研究主幹	西村直樹	〃	上川農業試験場
農業環境部主査	古館明洋	〃	上川農業試験場 天北支場
病虫部研究主幹	清水基滋	〃	十勝農業試験場
病虫部研究主任	小野寺鶴将	〃	十勝農業試験場
作物開発部研究職員	西村努	〃	北見農業試験場
生産研究部主査	中村隆一	〃	北見農業試験場
企画調整部課長	白井滋久	〃	北見農業試験場
遺伝資源部研究職員	峰崎康裕	〃	花・野菜技術センター
遺伝資源部研究職員	梶田路津子	〃	空知支庁産業振興部農務課
作物開発部研究職員	藤井はるか	〃	宗谷支庁産業振興部農務課
病虫部研究職員	栢森美如	〃	釧路農業改良普及センター
作物開発部研究職員	齋藤優介	H23. 1. 1	新規採用

### 3) 転出者及び退職者

職 名	氏 名	発令年月日	備 考
企画情報室長	品 田 裕 二	H22. 4. 1	北見農業試験場
生産環境部長	中 尾 弘 志	〃	道南農業試験場
研究参事	長 尾 明 宣	〃	花・野菜技術センター
総務課主任	高 谷 奈 美 恵	〃	空知総合振興局農務課
総務課主任	高 橋 直 哉	〃	畜産試験場
総務課調査員	坪 田 繁	〃	上川総合振興局農務課
総務課主任	千 葉 守	〃	十勝農業試験場
総務課調査員	松 尾 工	〃	釧路総合振興局農務課
企画情報室主査	泉 統 仁	〃	石狩総合振興局農務課
生産研究部研究職員	木 村 慎	〃	檜山振興局農務課
防除指導課長	橋 本 昭 雄	〃	空知総合振興局農務課
基盤研究部副部長	竹 内 徹	〃	北見農業試験場
遺伝資源部ほ場管理科長	前 川 利 彦	〃	上川農業試験場
遺伝資源部ほ場利用科長	南 忠	〃	渡島農業改良普及センター
企画情報室主査	谷 藤 健	〃	十勝農業試験場
企画情報室調整課長	宝 寄 山 裕 直	〃	根釧農業試験場
企画情報室主査	高 橋 睦	〃	花・野菜技術センター
作物研究部研究職員	神 野 裕 信	〃	北見農業試験場
生産研究部経営科長	金 子 剛	〃	法人本部(農政部技術普及課に出向)
生産環境部栽培環境科長	小 野 寺 政 行	〃	北見農業試験場
生産環境部栽培環境科研究主査	田 丸 浩 幸	〃	花・野菜技術センター
生産環境部予察科研究職員	三 宅 規 文	〃	十勝農業試験場
技術普及部主査	古 原 洋	〃	上川農業試験場
技術普及部主査	請 川 博 基	〃	十勝農業改良普及センター
技術普及部主査	川 口 招 宏	〃	上川農業改良普及センター富良野支所
研究参事	目 黒 孝 司	H23. 3. 31	退職
作物開発部主査	村 松 裕 司	〃	〃
総務課指導主任	加 可 谷 知 夫	〃	〃

\*平成22年4月1日付け地方独立行政法人化に伴う組織機構改正及び場内異動等分は掲載していない。



## 8. 収入決算額

(単位:円)

科 目	当初予算額	最終予算額	決算額	増 減
依 頼 試 験 手 数 料	2,879,000	1,768,000	1,954,320	186,320
農 産 物 売 払 収 入	5,410,000	5,410,000	4,491,617	▲ 918,383
不 用 品 売 払 収 入	6,000	298,000	58,590	▲ 239,410
法 人 財 産 使 用 料 等	1,331,000	919,000	1,166,866	247,866
そ の 他 雑 収 入	90,000	424,000	388,418	▲ 35,582
共 同 研 究 費 負 担 金	500,000	1,490,000	1,490,000	0
国 庫 受 託 研 究 収 入	0	14,018,000	14,018,000	0
道 受 託 研 究 収 入	8,683,000	13,138,987	13,138,987	0
そ の 他 受 託 研 究 収 入	105,868,000	132,311,043	132,311,043	0
施 設 整 備 費 補 助 金 収 入	5,340,000	5,864,250	5,864,250	0
国 庫 補 助 金	14,994,000	15,659,000	15,659,000	0
道 補 助 金	2,000,000	2,000,000	2,000,000	0
計	147,101,000	193,300,280	192,541,091	▲ 759,189

※事業費支弁人件費振替額を含む

## 9. 支出決算額

(単位:円)

科 目	当初予算額	最終予算額	決算額	繰越額	残 額
戦 略 研 究 費	5,320,000	10,107,000	7,478,718	2,628,282	0
重 点 研 究 費	7,752,000	7,752,000	7,295,002	364,817	92,181
職 員 研 究 奨 励 費	0	1,639,000	1,585,500	0	53,500
経 常 研 究 費	33,486,000	34,168,000	31,552,500	0	2,615,500
依 頼 試 験 費	1,497,000	954,000	899,504	0	54,496
技 術 普 及 指 導 費	463,000	344,000	321,679	0	22,321
研 究 用 備 品 整 備 費	0	2,353,050	2,353,050	0	0
維 持 管 理 経 費	154,380,000	157,945,000	152,052,499	0	5,892,501
研 究 関 連 維 持 管 理 経 費	54,000	234,000	234,000	0	0
知 的 財 産 経 費	0	321,000	283,200	0	37,800
運 営 経 費	37,053,000	42,687,590	39,247,432	0	3,440,158
共 同 研 究 費	500,000	1,454,000	1,454,000	0	0
国 庫 受 託 研 究 費	0	13,474,000	13,474,000	0	0
道 受 託 研 究 費	8,683,000	13,138,987	13,138,987	0	0
そ の 他 受 託 研 究 費 (公 募 型)	46,619,000	46,641,043	46,641,043	0	0
そ の 他 受 託 研 究 費 (受 託)	54,098,000	78,051,341	78,051,341	0	0
施 設 整 備 費 補 助 金	5,340,000	5,864,250	5,864,250	0	0
国 庫 補 助 金	10,942,000	13,475,000	13,475,000	0	0
道 補 助 金	2,000,000	2,000,000	2,000,000	0	0
計	368,187,000	432,603,261	417,401,705	2,993,099	12,208,457

※事業費支弁人件費振替額を除く

## 10. 新たに設置した主要施設及び備品

### 1) 施設

油庫改築工事(遺伝資源部)

工事費 4,919千円

### 2) 備品(1件100万円以上)

(単位:円)

名 称	規 格	数 量	金 額	配 置
サーマルサイクラー	アブライドバイオシステム社verti96-well0.2ml	3	1,749,300	生物工学G
超高速遠心粉砕器	フリクチュ社 ロータスピードミルP-14	1	1,044,750	環境保全G
グレンドリル	(合)田端農機具製作所 TDWJ-8GD	1	1,015,314	水田農業G